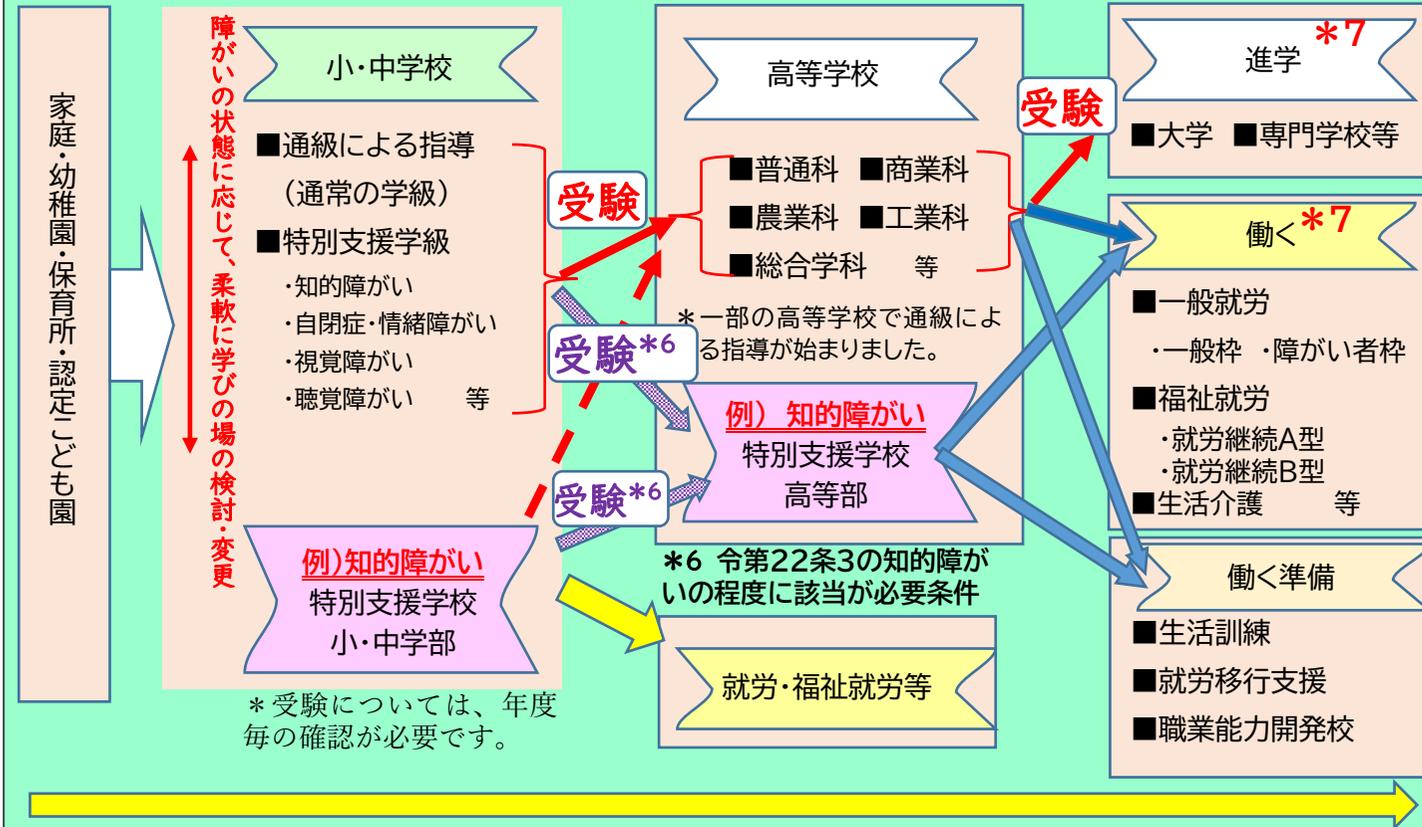


# 多様な学びの場における幼児期から進学・就労までの見通し(例)

## 幼児期から進学・就労等までの見通しの例



### ■ 一貫した教育支援の重要性

早期からの教育相談・支援を就学期に円滑に引き継ぎ、障がいのある子供一人一人の精神的及び身体的な能力等をその可能な最大限度まで発達させ、学校卒業後の地域社会に主体的に参加できるよう移行支援を充実させるなど、一貫した教育支援、見通しが必要となってきます。

\*7: 進学や一般就労を目指す際、対象が「高卒」となっている場合は、知的障がい特別支援学校の高等部卒業が該当するかどうかは、確認が必要です!

全ての場において、「個別的教育支援計画」の作成・活用等を通じて、一人一人の障がいの状態等に応じた 合理的配慮を申し出ることができ、本人の教育的ニーズを整理・検討し、学校等と話し合いながら提供可能な合理的配慮を受けることができます。

\*参考・引用: 「本人・保護者に伝える Book」(相馬支援学校・令和3年9月)